

まちづくり市民ワークショップ

【第1回 報告書】



令和7年10月
龍ヶ崎市

目 次

I	ワークショップについて	1
1.	ワークショップの目的	1
2.	ワークショップのテーマ	1
3.	ワークショップについて	1
II	ワークショップ（第1回）の進め方	3
III	ワークショップ（第1回）の結果について	4
1.	開催の概要について	4
2.	グループワークの成果	5

I ワークショップについて

1. ワークショップの目的

- 「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」は、本市のまちづくりの基本的な方向を示す最上位の計画で、令和5年(2023年)1月から令和13年(2031年)3月までのおおむね8年間を計画期間としています。
- さらに、この計画では、将来ビジョンを実現するため、計画期間の8年間を前期と後期に区分して基本計画を策定することとしており、令和8年度末までが前期基本計画の期間となっています。
- このワークショップでは、令和9年度以降の基本的な施策の方向や体系などを示す後期基本計画を策定するため、市民の皆様から、市政の各分野の現状や課題に関するご意見をいただくとともに、後期基本計画の策定に向けて、市民の皆様がどのような取組を求めているかをお聞きするほか、それらの取組を市民の皆様とどのように進めていくべきかなどについて、一緒に考える機会とさせていただくことを目的に開催しました。

2. ワークショップのテーマ

前項をもとに、このワークショップの全体テーマを次のように設定しています。

【ワークショップ全体のテーマ】

～龍ヶ崎市を“こんな暮らしができるまち”にしたい～

3. ワークショップについて

(1) 検討方法

- ワークショップは2回開催し、現状や課題の整理、各テーマについての提案を行います。
- ワークショップでは、市政の分野をもとに4グループに分け、各グループで関連する2テーマを議論します。

回数	開催日	グループ			
		A ひとづくり	B 健康・くらしづくり	C 賑わい・活かづくり	D くらしづくり
		分野①、②	分野③、④	分野⑤、⑥	分野⑦、⑧
1回目	10月18日(土)	各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘り			
2回目	11月22日(土)	第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、施策や取組を提案			

(2) グループ（分野）の設定について

グループ	分野	テーマ	
		グループ	共通
A ひとづくり	①子育て・若者支援 〔次世代を担うひとづくり〕 ②学校教育・生涯学習 〔学びを楽しむ環境づくり〕	A-① 「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには	○市民からの発信・発意を促進し、市民協働でまちづくりを進めるには
		A-② 「全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには	
B 健康・ くらしづくり	③健康・スポーツ 〔健康を創り、支える環境づくり〕 ④共生社会(地域共生、多文化共生)、地域コミュニティ 〔地域共生社会づくり〕	B-① 「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには	
		B-② 「支え合いや交流が育まれるまち」にするためには	
C 賑わい・ 活力づくり	⑤産業・経済、市街地活性化 〔龍ヶ崎の活力づくり〕 ⑥観光交流、情報発信、移住・定住 〔地域間交流と魅力づくり〕	C-① 「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまち」にするためには	
		C-② 「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまち」にするためには	
D くらしづくり	⑦防災・暮らしの安全・安心 〔安心・安全を実感できる環境づくり〕 ⑧生活環境・都市計画 〔暮らしやすいまちの基盤づくり〕	D-① 「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには	
		D-② 「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」にするためには	

Ⅱ ワークショップ（第1回）の進め方

①自己紹介・役割決め

- 一人ずつ自己紹介(お名前・年齢・職業など)。
- グループで作業を進めるため、①進行 ②書記 ③発表者を決定。

②グループワーク

- 進行役が、各テーマについての意見交換を進める。

【意見の出し方・まとめ方】

- 意見については、用意した付箋を用いて、次のような手順で作業を実施。

- 手順1 テーマについて自分の意見を付箋に記入。
- 手順2 テーマについて、手順1の意見を発表しながら、付箋をシートに貼り付ける。
他の人の意見を聞いて、同じ意見だった場合は、自身の付箋も貼っていく。
- 手順3 手順2でまとめた「似ている意見」のポイントをまとめる。
※書記の方が、グルーピングやまとめを記入。

- 各グループで、2つのテーマについて検討するので、それぞれで、【意見の出し方・まとめ方】の手順を繰り返す。

③発表

- 作業シートをホワイトボードや壁面に掲出し、発表者が説明。

Ⅲ ワークショップ（第1回）の結果について

1. 開催の概要について

(1) 開催日時 等

■開催日時：令和7年10月18日（土）13：00～17：00

■場 所：龍ヶ崎市役所 保健福祉棟 3階
多世代交流センターRINK コミュニティホールA

■参加者：15名

(2) タイムスケジュール

項目	時刻	時間	内容	
オリエンテーション	13：00	5分	挨拶 ワークショップについて	
ワークショップ	13：05	20分	龍ヶ崎市の現況及び 龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030 の概要について	
	13：25	140分	10分	① アイスブレイク（自己紹介）
	13：35		50分	② 役割決め（発表者、進行、書記）
	14：25		15分	③-1 グループワーク（テーマ1） 〔休憩〕
	14：40		50分	③-2 グループワーク（テーマ2）
	15：30		15分	④ まとめ
共有（発表）	15：45		40分	各グループ作業結果を発表
講 評	16：25	5分	発表された内容についての講評	



📷 【会場全体】 龍ヶ崎市の概況等について説明中の様子

2. グループワークの成果

■グループAの成果

■「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには

(1) 発表要旨

若者・子育て世代が暮らしやすいまちを目指し、意見を4つのテーマに整理した。

①暮らしやすいまちでは、たつのこ山のトイレがきれいになり、子連れで行きやすくなったとの声があった。また、公園面積が住民当たりで高い点も強みで、都内から子育て世代を呼び込める可能性がある一方、移動に時間がかかるなど交通の便の悪さが課題として挙げた。空き家問題については、空き家を居場所づくりや子育て支援の拠点として活用し、地域に支援の場を増やしたいという提案がされた。さらに、ごみ分別が少なく負担が軽い点を評価する声もあった。

②0～18歳の切れ目ない居場所づくりでは、各地区のコミュニティセンターをもっと活用し、小学校を朝から開ける、学童の時間を充実させるなど、子どもが過ごせる場を増やす案が示された。土曜は幼稚園や一時保育がなく預け先が限られる実情も共有され、預けられるサービスの拡充が必要とされた。さらに、高齢者が多い地域特性を踏まえ、子育て世代と高齢者が交わるイベントや場所づくりも提案された。

③男性社会の脱却では、女性を尊重し、家事育児の分担を当たり前にする意識改革と、働く女性が安心して2人3人の子育てをできる環境整備を課題として提示し、男性育休(最低1か月など)も論点になった。

④経済的支援では、0～18歳の医療費無償化に加え、教育費の実質無償化、保育園も含めた給食費無償化が必要だと考えていると指摘があった。



👉 【A班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの指導者育成。街全体で子育てする。 ・あいさつ、ゴミ、ポイ捨て。9ツまでは街で育てる。 ・児童公園を一年中遊べる公園にする。 ・10歳からは親の責任。 ・ゴミの分別をしないで良いので楽。 ・ひらがな、A・B・C、数字、目的をもった公園にする。 ・周りの環境の意識。 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
暮らしやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・たつのお手洗い、きれいになってgood ・子育て世代を呼び込む。東京から、住宅費 ・長い移動→金銭面(不) 都心とは遠い。時間もかかる。 ・空き家の活用→公的施設
0才~18才まで切れ目ない居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の時間拡大 ・小学校が朝から開放されている ・地域みんなで子育て ・コミュニティセンターの活用 ・進む高齢化→高齢者が交わる施設・イベント(自治会など) コミュニティ館 etc. ・預け先がもっとほしい ・放課後の学校開放
男性社会の脱却	<ul style="list-style-type: none"> ・家事・育児の分担をあたり前に ・働く女性が安心して2人、3人子育てができる ・男性育休、最低1ヶ月
経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭的不安 ・医療費無償化 0~18 ・本当の!!教育費無償化 0~18 ・給食費無償化 保育園~中学 0~15

■第1回 ワークショップのテーマ

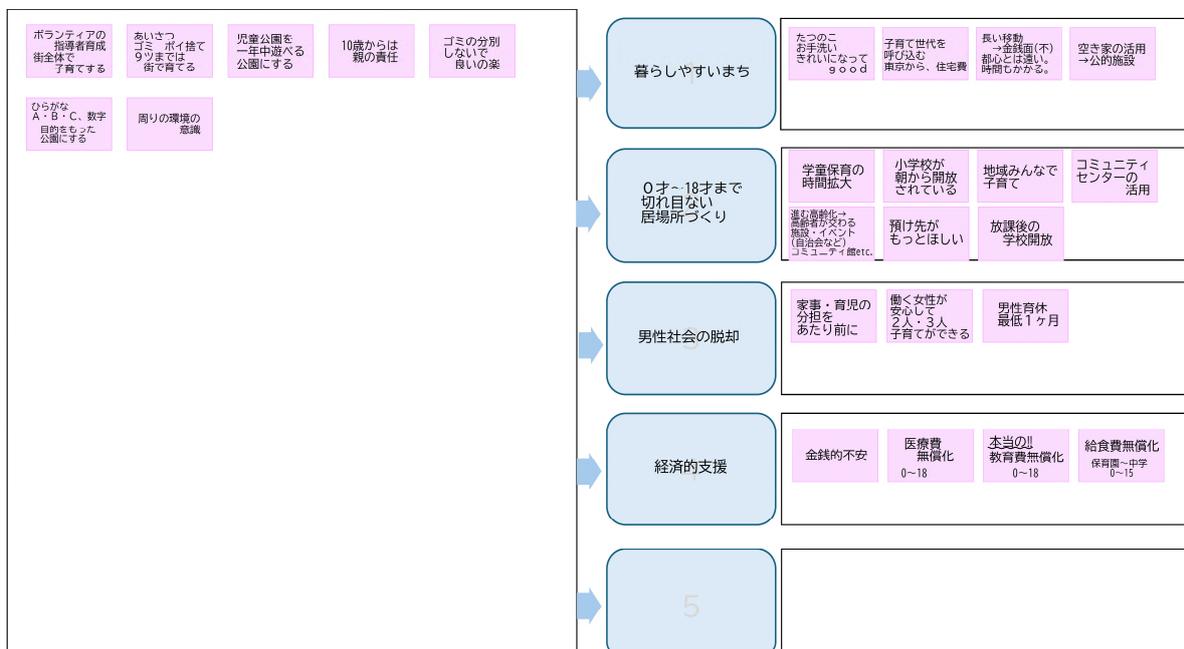
①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。



■「すべての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには

(1) 発表要旨

大学生から高校生、高校生から中学生、中学生から小学生、小学生から園児といった、年齢をまたいだ学びのイベントを通じ、世代のつながりをつくることや、読書の楽しさを広げることが提案された。

また、公園のメンテナンスや空き家など地域課題も踏まえ、学びの場づくりを具体化するために5点をテーマとして検討した。

①中高生の交流のきっかけの場として、文京区青少年プラザ「b-lab」のような交流拠点を龍ヶ崎市にも設ける。寺子屋、市民活動センター、廃校・廃病院、空き家など既存資源の活用も視野に入れる。

②オンライン配信で学ぶ機会を拡大し、生成 AI など時代の変化も踏まえ、オンラインで学べるキャリア教育講座を行う。

③体験学習の充実として、中学生には金融教育、高校生には女性のキャリア座談会のほか、地域で子育てするコミュニティスクールや学童の充実、放課後に学べる場、自然体験の機会づくりといった意見が挙がった。

また、生涯学習の重要性から市民大学をより充実させ、学ぶ意欲のある高齢者も挑戦できる場を広げるべきと提案。さらに、働く女性の学び直し・キャリア継続を行政が支え、離職を減らし生活基盤を守ることが「選ばれるまち」につながると述べた。



【A班】発表中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<ul style="list-style-type: none"> ・大→高、高→中、中→小、小→保のような教えるイベント ・年の壁を越えたイベント ・各世代の繋がる教室イベントなどの無料化 ・本を読む楽しさを伝えたい！ ・AI普及による学力の低下（特に高校・大学） ・「赤ちゃんが学校に来る」事業をしています ・公園のメンテナンス 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
中高生のきっかけの場	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の交流センター 文京区 b-lab ・寺子屋 ・市民活動センターの活用 ・廃校活用
オンライン配信 学ぶ機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで学べる、キャリア教育講座 ・オンライン配信してほしい
小・中学校の体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生のお金の教育 ・高校生との、女性のキャリア座談会 ・コミュニティスクールで地域で子育て ・学童の充実 ・子供の自然体験学習 ・放課後の学校開放 ・学校が閉鎖的（放課後も開きたい！）
生涯学びの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学の充実 ・働く女性のための学びの講座
具体的なイベント概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インド式九九の普及 ・たつのこ山でオセロ大会

■第1回 ワークショップのテーマ

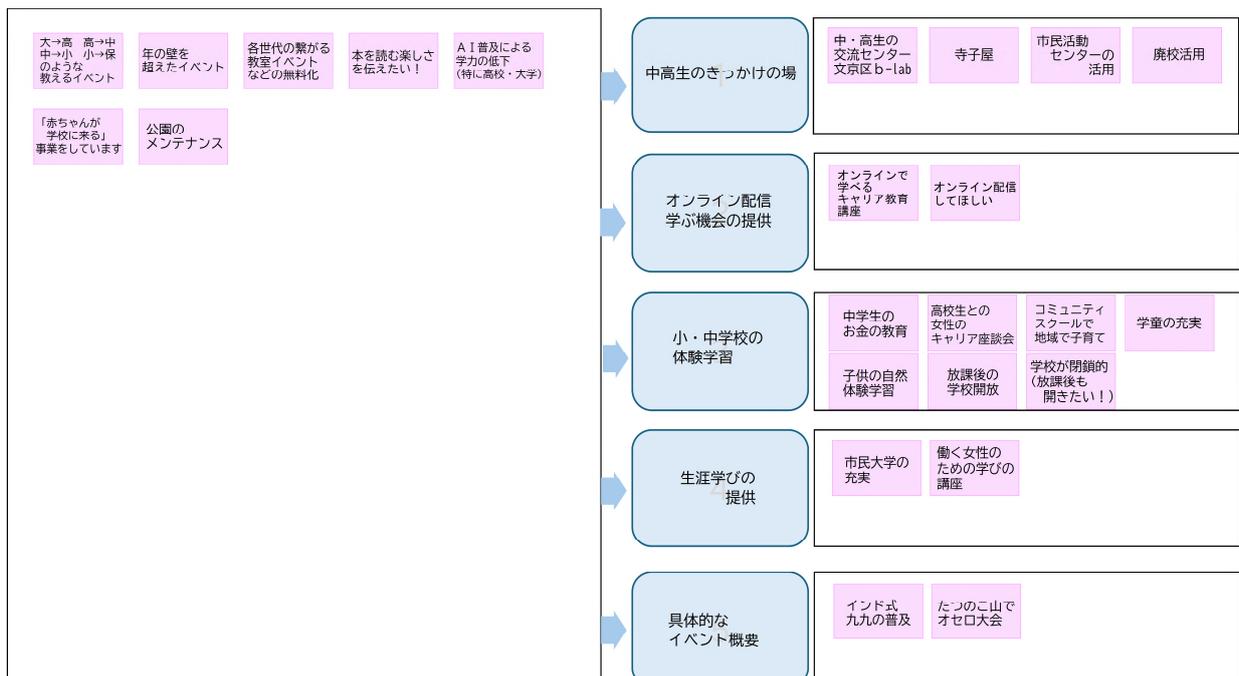
○各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。



■グループBの成果

■「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには
(1) 発表要旨

本発表では、課題と施策を5つの観点(①孤独②運動に関する行事③健康チェック④現状の課題⑤行政支援)で整理した。まず、①孤独について、健康には運動が不可欠だが、孤独で外との関わりが薄い人ほど運動の機会が減るのではないかと捉えた。孤独自体は悪ではなく一人を楽しむ形もある一方、寂しさを感じる人にはイベント周知などで「楽しみ」と仲間づくりの環境を用意し、外に出るきっかけをつくるべきだとした。

次に、②運動行事では、始め方が分からない人の入口として、地域コミュニティや行政、団体が運動と結びついた行事を開催することを提案。コミュニティセンター主催で登山・ウォーキング・バードウォッチング等を行えば、運動と交流の双方につながると述べた。

③健康チェックでは、年1回の健診にとどめず、市や地域で短いスパンのチェックを行い、スコア化してゲーム性を持たせる案を提示。ランキングや景品があれば継続意欲が高まるとした。

④現状課題としては、高齢者と若者の交流不足、誰もが楽しめる運動メニューの設計(例:ゲートボールの再評価)、さらに地域イベントで男性参加が少ない傾向への対応を挙げ、男性も参加しやすい環境づくりが必要とした。

⑤行政支援は、公園への運動用具設置や規則の見直しで子どもが体を動かせる余地を広げること、ホームページ以外も含めたイベント周知(車での広報など)の工夫を提案し、場と情報の両面から参加を促す重要性を強調した。



【B班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
-	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
孤独	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもっている方の楽しみは？お酒などで体に悪い ・ひきこもりが一番問題。特に男性。 ・独居者の面倒は民生委員さん。大変。本人が興味を持てるような「しかけ」がほしい。むずかしい。 ・ひきこもり＝孤立。地域になじんでいない。男性は特に心配。
運動行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会などあったら、若者は来るか？一人ではムリ。 ・イベント、祭りを開催。そこまでの歩きを意識させる。 ・子ども会との連携で、夏：ラジオ体操、冬：もちつきなど ・学童とコミュニティセンターが協力して、子どもから大人まで運動の機会をつくる。 ・松葉地区、長山地区小学校校庭で毎朝ラジオ体操が行われている。顔見知りが増えていい。 ・子ども会とつながってラジオ体操ができればいいのでは。 ・ハイキングをコミュニティセンターで毎年行っている（松葉）。20名くらい行事として取り組んでいる。市のバスを活用。 ・コミュセン主催のイベント（運動）をやる。
健康 体力チェック	<ul style="list-style-type: none"> ・50歳や60歳で地域ごとに集まって体力測定があれば？リタイア前につながりができれば。 ・体力測定会を定期的に行い、自分の体力を自覚。参加者にはシール、ポイントなどごほうび。次回まで向上を目標に。顔見知りも増。 ・元気アップ体操。参加者の8割9割は女性。高齢男性の参加は少ない。 ・若い、年配に関わらず、日頃運動不足の方が多と思う。市で体力測定健診会があり、ごほうびシールなど。
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿会は価値観の多様化で衰退がみられる。 ・若柴旧市街はコミュニティが濃い。ニュータウンではつながりが希薄。 ・声を出してもほほえんでみてくれてもらえたら、若者もうれしいのでは。 ・自分の経験のないスポーツに触れ合う機会は少ない。 ・男性の参加者は数少ない。 ・興味を持ってもらえるようにする。
行政による支援	<ul style="list-style-type: none"> ・万歩計と連携させて、ポイントがたまると刺激になってごほうび感もある。 ・興味のある方は調べて参加もできるが、周知が少ないので参加へのハードルが高い。タッポくん？ ・運動できる公園が近くにあるのか？周知されていない。知らない人が多い。 ・公園に大人向けの健康づくりのための道具があると、気軽に利用できてフレイル予防につながると思う。 ・公園でボール遊びが禁止など、規則が厳しいと若者が公園に来てゲームになるかも。 ・健康体操など市内で実施されていると聞いているが、参加の仕方がわからない。 ・体操は特別募集はしていない。友人とかの紹介に限られると広がらない。 ・スポーツイベントのさらなる周知。

■第1回 ワークショップのテーマ

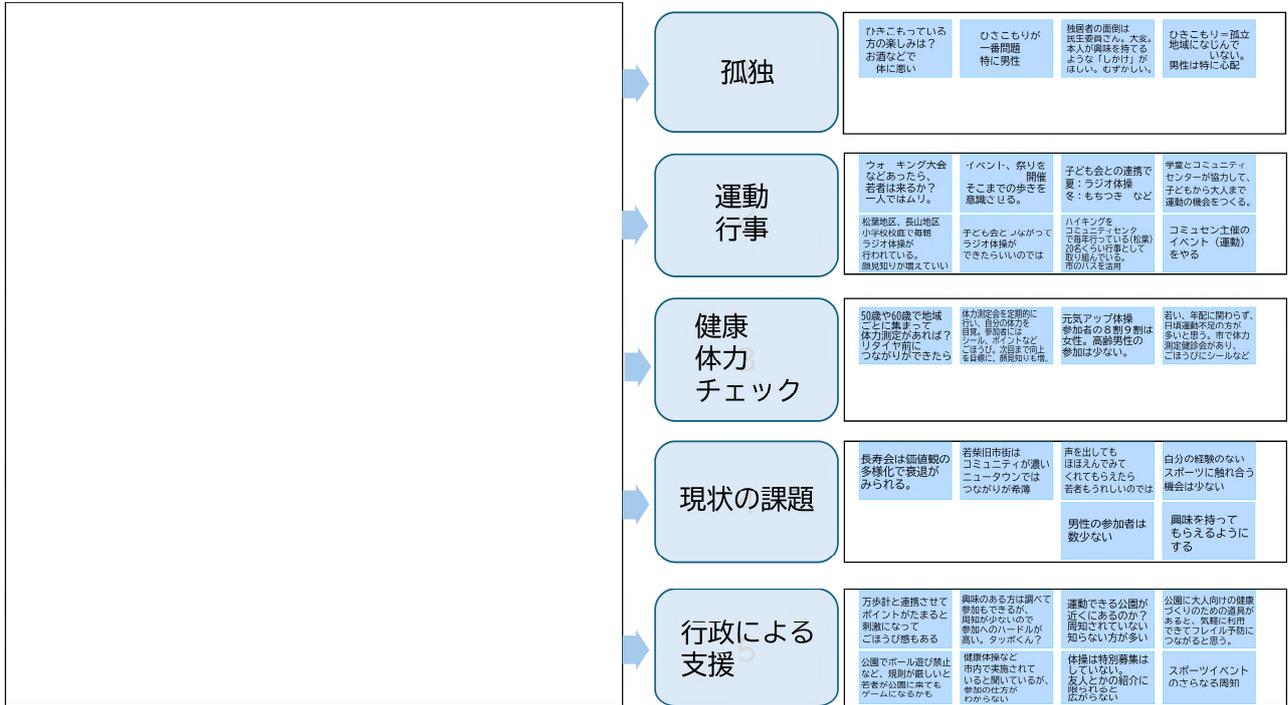
○各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。



■「支え合いや交流が育まれるまち」にするためには

(1) 発表要旨

5つのテーマ、異文化理解、ご近所付き合い、小中学校と高校・大学の地域とのつながり、歴史・文化の継承、最後に 交流と共助を設定した。

①異文化理解では、外国人を原因と決めつけがちな騒音・ごみ・治安問題は、日本人でも起こり得るため、まず偏見を取り除く必要がある。龍ヶ崎市はホームタウンを結ぶ国がない点を踏まえ、姉妹都市などの国際交流を通じて理解を深める案を提示。日本側が学ぶだけでなく、外国の方にも日本の価値観やルールを理解してもらい、相互のすり合わせで共生を進める。

②ご近所付き合いでは、交流の基盤だが、社会情勢の変化で防犯・トラブル回避を理由に関わりが減少。自治会などコミュニティ参加が促進策になり得る一方、加入が負担だと参加されず、結果として近所付き合いも生まれにくいという課題が残り、明確な結論は持ち越しとなった。

③学校と地域のつながりでは、学校を「学び舎」かつ「地域とつなぐ架け橋」と捉え、子どもを地域の宝として地域ぐるみで育てる重要性を強調した。小中学校をコミュニティセンター的に活用し、休日の学校をより開かれた空間に。草むしり等の行事も PTA 中心から、地域住民が参加しやすい開かれた形へ広げることが提案された。

④歴史・文化の継承では、ベーゴマや羽子板など、昔遊びの衰退により、人から教わる機会が減り、関係が希薄化しているとの指摘があった。説明書にない遊びや、撞舞など地域の祭り・文化を「みんなで取り組む」ことが交流のきっかけになると考えた。

⑤交流と共助：防災・防犯とも連動し、平時のつながりが非常時の助け合いにつながる。互いを気にかける関係や地域ぐるみの関係が安心感を生み、人が集まる活発なまちになる。また、若者から高齢者まで誰もが住みよいまちのため、イベント等で交流のきっかけを増やすことが重要だと考える。



👉 【B班】発表中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
-	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
異文化理解（共生）	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな粗点の必要性。取手・つくばは交流国があり、留学とかしている。龍ヶ崎市は相手がない。 ・外国の方との共生について。ゴミのルールを守らない。どんちゃん騒ぎなどと言われている。 ・外国人との交流について。国際交流協会の方が尽力しているのは知っている。一般人は参加する機会が少ない。 ・まだ龍ヶ崎市では、外国の方との大きな問題は起こっていないのではないか。
ご近所付き合い	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティづくり ・住民の意識 ・高齢で班長ができないと町内会を抜ける人、回覧板もいらないと抜ける若い人もいる。ゴミ問題など困る。 ・自治会に入る入らないは住民の意思。やむを得ない部分もある。班長は何歳からは免除とかないから負担もある。 ・北文間、若柴など、古くからの方は顔がわかる。ニュータウンはとなりの方もわからない。 ・地区の班長さんが回ってきた。近所の方が何に困っているのか？情報共有が希薄。住民意識がちがう。
小中学校と高校・大学の地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校コミュニティセンターを活用したもの。 ・コミュニティセンターで申し込んで身分がわかるようにして、学校の草むしりに参加するとか。防犯もあるけれど、かかわってほしい。 ・小学校での草むしりはPTAの呼びかけである。地域の方と一緒にできたら、学校行事の間口が広がるのでは。 ・子どもの社会性が身につくために自治会でかかわり合いがあることが理想。 ・子どもの登下校の見守りをPTAと地元のボランティアと連携ができれば理想。防犯面とのかねあいがネック。
歴史・文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・コロツケのまつり、いがっぺ ・行事 ・ふれあい祭り。地域で活動する団体が参加。新しく仲間入りするにはハードルが高い。 ・龍ヶ崎の歴史の継承が行われていけたら。つくまいなど。 ・八坂のまつり、つくまい。流大とのつながり。学生が神輿をかつぐ
交流と共助	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流。昔のあそび。けん玉、たこあげ ・龍ヶ崎コミュニティセンター。小学生と昼休みに交流する日がある。 ・多世代交流。たこあげ、こま回しなど、日本人の遊びを年配者から教えてもらう機会がない。 ・農家さんとの交流。親子で草とりのボランティア。草とり体験会があれば、子どもの社会性は身につく。農家の負担になる？ ・自助、公助、共助。地震などの災害の時、民生委員には限度がある。自治体の脆弱を感じる。

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。

	<h3>異文化理解 (共生)</h3>	グローバルな視点の必要。話す・人は交流圏があり、留学とかしている。龍ヶ崎市は特異がない。	外国の方との共生について、このルールを守らない。どんちゃん様さなど言われている。	外国人との交流について。国際交流協会の方が尽力しているのは知っている。一般人は参加する機会が少ない。	まだ龍ヶ崎では外国の方との大きな問題は起こっていないのではないか。
	<h3>ご近所付き合い</h3>	北文祭、若衆など、古くからの方は賑がわかる。ユーチューブはどなりの方もわからない。	住民の意識 地区の理事長さんが居るけど、近所の方が何に困っているのか？情報共有が希薄。住民意識がらう。	高齢で理事長できないと町内会を抜ける人。団長もいらないと抜ける若い人もいる。ゴミ問題など出る。	自治会に入らない人は住民の意思。やむを得ない部分もある。理事長は得意からは参加とかないから負担もある。
	<h3>小中学校と高校・大学の地域とのつながり</h3>	小学校・中学校コミュニティセンターを活用したもの。	コミュニティセンターで申し込んで自分がなれるようにして学校の集むりに参加するとか。負担もあるけど、かかってほしい。	小学校での集むりにはPTAの集むりがいい。地域のつながりもできたら。学校行事の輪が広がるのでは。	子どもの社会性が身につくくらい自治会がかかり合いがあることが理想。
	<h3>歴史・文化の継承</h3>	コロッケのまつり いがっぺ 八坂のまつり、つくまい。 溝火とのつながり 学生が興味をかつく	行事	心れあい祭り 地域で活動する団体が参加。新しく仲間入りするにはハードルが高い。	龍ヶ崎の歴史の継承が行われていたら。 つくまいなど。
	<h3>交流と共助</h3>	多世代交流。 昔のおそび けん玉、 たこあげ 自前、公助、共助 地震などの災害の時、民生委員には役割がある。自治体の職員の職に	龍ヶ崎コミュニティセンター 小学生と昼休みに交流する日がある	多世代交流 たこあげ、こま回しなど、日本人の遊びを年配者から教えてもらう機会がない。	農家さんとの交流 親子で農どりのがらうアツアツ。農どりで体験があれば、子どもの社会性は高くなる。農家の負担になる？

■グループCの成果

■「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまち」にするためには

(1) 発表要旨

まず、冒頭で「市民人材の不足」の問題提起がなされた。ワークショップも募集人数に届かない現状を例に、人材がないまちは、さらに衰退すると考え、人材を増やすには「働く場所=仕事」を確保することが不可欠であり、仕事が減り、アルバイト程度しかないまちでは人は集まらず、発展性が無いとの指摘があった。龍ヶ崎市は東京が近く、家賃負担も抑えられる強みを活かし、「龍ヶ崎に住んで働く」ことを最重要ポイントにすべきであると述べた。また、

今後10~20年でAIやロボットが工場労働だけでなく知的労働や運転なども代替し得るため、仕事のあり方を真剣に再定義すべきだと述べた。その上で、与えられた仕事で稼ぐより、能動的に社会のために働くこと(例:NPOやボランティア的活動)が本来の仕事であり、そうした活動が成り立つ環境を龍ヶ崎で整える提案を行った。

また、インターネットを前提に「顧客は世界」と捉え、駅前などに高速ネットが使える小規模な仕事場を整備し、起業・創業を増やす構想を示した。龍ヶ崎の強みとして、大学、都心近接、自然、鉄道、相撲部屋の存在を挙げ、これらが揃う希少性を訴えつつ、大学と市民・市役所の連携不足や、縄文期からの歴史文化が十分に知られず活用されていない点を課題とした。起業支援、人材確保、歴史文化の見える化、新産業育成(農業も含む)なども必要であるが、もちろん女性が参画し活躍できる条件整備、女性も一緒になって取り組んでもらうような環境の整備が必要であると考えている。



④ 【C班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<ul style="list-style-type: none"> ・良いところ：育児休業の増加（男女ともに） ・良いところ：福利厚生が充実がきっかけで、多様な働き方ができている。 ・最近若くは若い男性より若い女性の方が仕事を一生懸命する ・人口が減っているため財政がないのでは。現状。 ・市民をあつめる。参加を促すこと。人材（人財）外から。 ・市外から来ている人が多い？半々。色々な人が集まっているところ？働き方は？ ・起業する人を集める。来てもらう。 ・首都圏から近い。 ・若人の働く場所が少ない。 ・女性の仕事場を増やす。世界に通じる仕事を。 ・企業と市との協働事業があっても良い。 ・とにかく起業する人が住みやすい環境を作る。 ・ネットで仕事ができるので、その仕事場を作る。 ・現状、旧市街地のシャッターの空屋が多い。 ・新たなショッピングモール？建設途中いっぱい。 ・大学連携 ・大学がある。連携しやすい。 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
起業する人の環境・支援を良くする 人財を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を利用した職場を作る ・自然環境を利用した創造的な遊びの空間を作る。 ワーケーション。 ・新たに創業する人々に市は支援し、多くの会社をつくるべきだ ・駅前にも作る（龍ヶ崎市駅）テレワーク ・市民の参加する場所を増やす ・龍ヶ崎市駅周辺にワークスペースを提供する ・東京などと比較して住みよい、仕事のしやすい環境を作る
大学との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・大学に農学系の学部を作る。もらう。 ・若者で起業をしたい人が多い
地域文化・歴史を活用	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と文化の町を標ぼうできるモデルの場所を作る ・平安からの文化がある。 ・アニメの町を目指して、各種取り組み
新しい産業を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業のための研究所施設を市で立ち上げ、運営し、研究者の育成に努める。 ・今どき、山で水産物を養殖する事ができるのでこれらを支援して、新しい企業を作るべき ・新しい農業の発展推進 ・ピカッと光る新事業 ・市の食材を6次産業にするための推進がない
女性活躍推進	<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生・育児休暇の推進

■第1回 ワークショップのテーマ

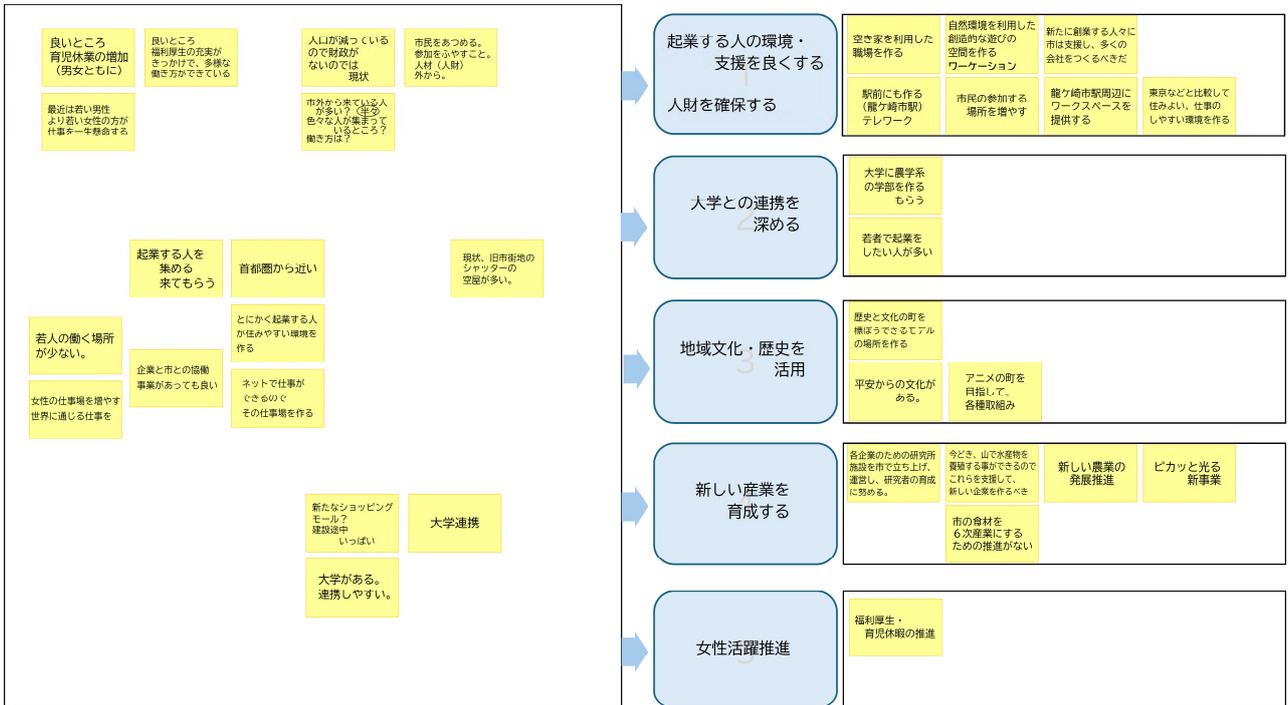
○各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。



■「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまち」にするためには

(1) 発表要旨

龍ヶ崎の魅力向上には、まず歴史・文化の掘り起こしと可視化が必要だと提起した。まちなか再生などに取り組む市民活動が、昭和初期や大正期の家屋を歴史文化として残したいと考えている一方で、調査がないまま解体され更地化した例があり、最低限でも調査し、資料として記録・保存すべきだと述べた。策定が努力義務化されている「文化財保存活用地域計画」について、隣の牛久市は策定しているが、龍ヶ崎市は未整備で、市の文化への関心の薄さも課題であると述べた。

さらに、東京近接という利便性に加え、子育て環境、自然資源を生かすこと、農業も重要で、効率化中心の農業振興だけでなく、新しい農業に挑戦すべきだと述べた。

空き家は多いのに活用が進まず、不動産主導の空き家バンクでは限界があるため、古い物件を活かした移住体験やカフェ等への転用を提案したい。加えて「龍ヶ崎ブランド」の構築や、流通経済大学との連携強化も必要とした。

交通面では公共交通の不便さを踏まえ、海外での運用例にも触れながら、将来策としてオンデマンド型の無人タクシーの先行導入が提起されたが、法整備等の問題も多く実現に向けた障壁についても話がされた。



④ 【C班】発表中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力：大学がある、課題：一時的な移住 ・リモートワークができる環境づくり ・地域で活躍する人を育てる。 ・市民活動者と協働作業がされていない。 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
龍ヶ崎の歴史・文化をPR！	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化の紹介ができる人材は？案内人検定 ・相撲部屋がある ・古い神社・仏閣を利用していない ・中島邸裏の工場跡を昭和の工場博物館として開館し、観光客を集める。 ・日本文化の紹介ができるようにする ・文化・歴史の豊かさが伝わっていない。 ・歴史文化の町を標ぼうする ・龍ヶ崎の古い資産を利用していない。 ・龍ヶ崎の古い建物を利用した観光スポットを作る
東京から近い！！けど自然もあり	<ul style="list-style-type: none"> ・東京に近い ・東京に近い田舎くらを推進。PR不足。 ・東京が近い。ポテンシャルが高い。都会に近い+田園風景が売り ・龍ヶ崎の自然を活用していない ・子育て環境をよくする ・東京で龍ヶ崎の魅力をPRする ・関東では、龍ヶ崎がどこにあるか知らない。東北地方と勘違いされている。 ・農業向上をもっと推進すべき ・東京から近い、をPRしていない ・子育て環境をPRしていない。空気が良いので、小児ぜんそくが良くなる、良い環境
空き家を利用した移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を利用して移住体験をしてもらう ・空屋を利用した民泊事業推進 ・移住・定住の推進が図られていない
龍ヶ崎ブランドをPRしよう 龍ヶ崎イベントをこまめにやろう	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ヶ崎ブランドを活用していない ・「龍」の字のデザイン目を引く。 ・龍ヶ崎の良さを他の都市と比べて良い所をあげ、PRする。 ・モルック体験会といった老若男女が関われる交流がある。 ・流大がある ・お米が魅力。良いところがたくさんあるのに、誰も知らない。 ・牛久沼がある ・全国の市町村の中で良い所と姉妹都市を作る ・竹灯籠祭を市でPRしていない。 ・市民が喜ぶイベントが少ない
公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・無人タクシーの町にする。(公共交通) ・竜鉄があるので利用 ・駅に何も無い→不便に感じる

■グループDの成果

■「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには

(1) 発表要旨

激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまちにするため、課題を3点に整理した。

①人のつながり不足：つながりが弱いと、災害時の対応が遅れ被害が拡大する懸念がある。若年層の減少で担い手が減り、マンションが町内で孤立しやすい点も課題。

②水害：河川敷の問題、下水道が壊れる前のインフラ整備、氾濫時にどこへ避難すべきかの周知不足が挙げられた。

③防犯：街灯が少ないなど、日常の安全確保が不十分という実感が共有された。

対策として、水害では、自治会等でグループLINEを作り、ハザードマップ情報を事前共有することが提案された。電子媒体だけでなく、学校やコンビニ等でハザードマップや危険河川情報を無料配布し、平時から認知を高めることが重要で、自助・共助を意識し、いざという時に動ける備えを地域で進めることが必要であると述べた。

防犯では、インフラ面で警備体制の見直し、防犯カメラ増設、街灯整備を提案。加えて空き家対策としてSNSで情報発信を行うことが重要であるとした。また、事前の対策としては、防犯教室を開き、ひったくり等の被害時の対応を学ぶとともに、あいさつなど、日頃の心がけで人のつながりを強めることを挙げた。

最後に、災害対応の要は人のつながりであり、情報面ではグループLINEの活用やInstagram・X等での発信、携帯を使わない人向けに、高齢者が集まりやすい場所へ広報・チラシを設置する案が出た。活動面では学校で防犯防災教室を行い行動をシミュレーションし、自治会単位の防災イベントで地域の結びつきを深めることが提案された。



🗨️ 【D班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<p>【水害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の氾濫時、市民が避難すべき場所について ・大雨になると市駅西口界隈が増水浸水する ・下水道が壊れる前に、インフラの整備 ・排水機能が麻痺する事が多い ・河川・側溝等の清掃が行き届かない <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し街灯が少なく、暗い所もある <p>【つながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの分断化 ・市駅西口地区の孤立化 ・若年層人口が減少しているため、若者による助けが減っている ・防災関係。携わる人の高齢化 ・人口が減りつつあるため、共助の低下につながる ・マンション単体で町内ゆえ孤立しやすい ・自治会の転入転出の激しさ <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市や地域との連携 ・消防署が多いので火災の際は駆けつけ時間が短く、早めの対応ができる ・情報共有の大切さ（主に行政から） ・情報発信がLINEからだけでどれだけ浸透しているのか不明 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
人とのつながりによる災害の対応	<p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会ごとに専用のLINEを作る ・市の情報共有ツールの作成 ・若い人が自治会に入りやすい環境づくり ・町内で情報を取りまとめることのできる人材（有償で）を見つける ・町内・地域の防災の取り組みのプロモ動画撮影PR ・若者が使用しやすいSNS（インスタ・X等）で情報を発信する ・高齢会の方が集まりやすい場所に広報（チラシ等）を置く <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で防災・防犯教室を行い、シミュレーションも行う ・自治会単位で防災イベント実施（つながりをつくる！） ・防災取り組み。ウェルビーイングへの取り組み ・市役所防災関連の出前講座
どうしたら水害発生時に被害者を抑えられるか	<p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINEでハザードマップを送信して、水害を知らせる ・学校やコンビニ等でも水害の情報を配布する ・市のハザードマップ周知 ・垂直避難の徹底 ・龍ヶ崎市にコミュニティラジオ局を作る!! <p>【自助・共助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水没箇所の把握 ・自助・共助・公助の自助の大切さを伝える ・防災バッグの準備を呼びかけ（市内放送） ・消防団との情報連携 ・自治会単位・コミュ協単位での防災訓練の実施
龍ヶ崎市の防犯として、何が大事か必要か	<p>【インフラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に街灯が少ないため、少し増やす ・防犯カメラの設置強化 ・警備体制の強化（交番等） <p>【空き家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に住む方へSNSを使用し、施錠の徹底 ・空き家対策 <p>【事前対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯教室を開き、実際に体験して対応できるようにする ・外国人との交流の機会をつくる ・多言語による防災防犯マップ作成と共有 ・ご近所付き合い ・あいさつ、声かけ ・市駅西口駅前活用したイベント（防犯・防災含めた）

■第1回 ワークショップのテーマ

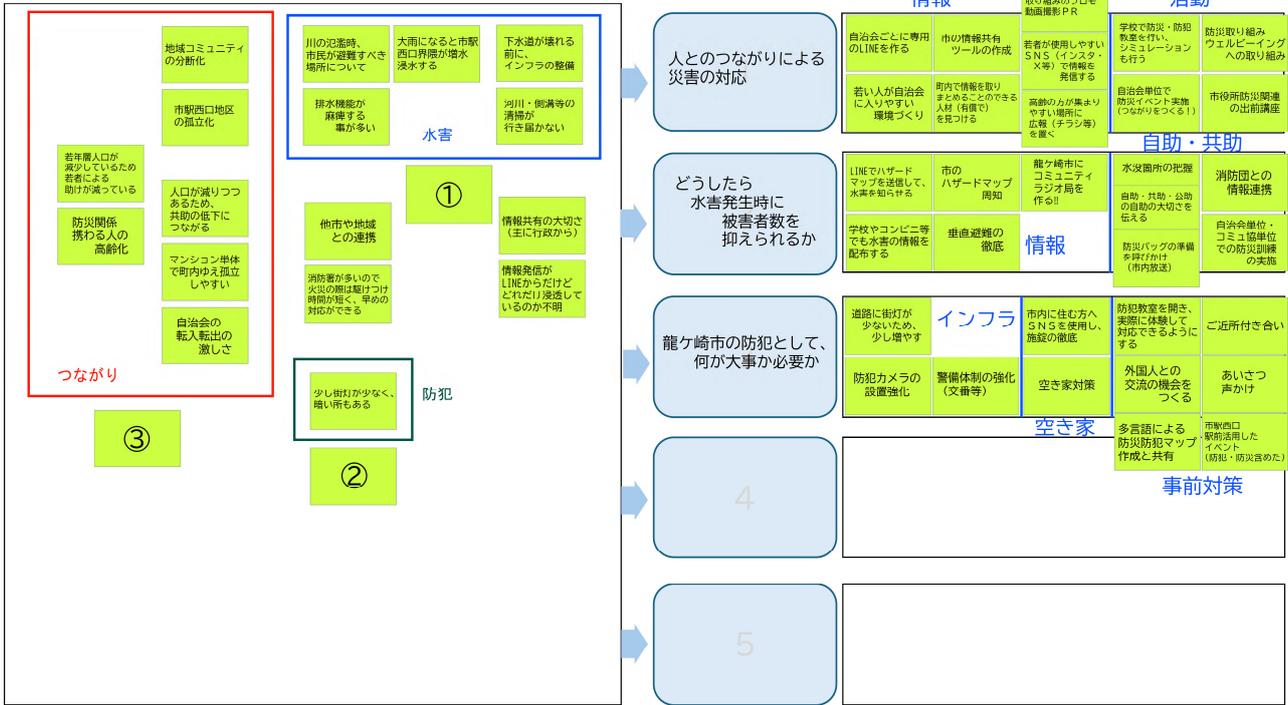
○各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。



■「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」
にするためには

(1) 発表要旨

人口減少・高齢化が進む中でも生活利便性と移動利便性を確保し、暮らしやすいまちにする方策を提案した。

現状として、人口減少により担い手不足や働き手の減少が起きており、高齢者を集めるだけでは人口減少対策として効果が薄いと整理。

解決には働き手を増やす視点が重要で、そのために起業・創業マインドの醸成や住宅地整備を進めれば、人口減少の抑制につながるのではないかと述べた。

あわせて、撞舞をはじめ祭りやイベントを積極的に発信し、「楽しそう」「住みたい」と思える魅力を高めること、道の駅など地域資源も含めて SNS 等で情報発信を強化することを提案。

市がたつのこアリーナ、たつのこ山、撞舞などを PR するだけでなく、各自治会が地区の魅力を発信することで地区ごとのつながりも促進され、移住・定住につながるとした。

移動利便性については、交通網が十分に発達していない点を課題に挙げ、龍ヶ崎市の場合、常磐線の龍ヶ崎市駅が中心となることを踏まえ、コミュニティバスを全路線駅へ接続させる、またはコミュニティタクシーを導入して利便性を高めたいとした。施策が高齢者向けになりがちなか中、車を持たない若者もいるため、若年層向けに電動自転車のヘルメット貸し出しなどを行い、移動手段を確保する案も示した。



【D 班】発表中の様子

(2) シート記載内容

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください	
<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少や担い手不足が発生している ・人口がより減少しやすい ・働き手の減少 ・災害に限らず、何かを始めるにしても偏りができてしまっている ・高齢者の地域離れ ・駅へのアクセスが不便 ・コミュニティバス・タクシーのさらなる拡充 ・交通網の悪化。バスや電車の本数減少 ・交通弱者問題（デマンドタクシー地域外） ・スーパーが遠い場所があり、買い物が不便である ・地域の孤立化（常磐線の西と東） ・アイデンティティの欠落 ・ウェルビーイングの4因子を浸透させる ・空家の有効活用（民泊・キャンプ場など） ・コミュニケーションの機会が減るリスクもあるため、信頼関係に欠ける ・自治会の閉塞感 ・住民同士交流のなさ 	
②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。	③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。
何をして人口を増やすか	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の人達との顔の見える関係性 ・市民提案制度の復活 ・起業創業マインド ・住宅地の整備 ・関東鉄道以外にもコロツケをアピールする ・発信者イベント（インフルエンサーの集い） ・アートイベント ・空家を利用した魅力の創出（キャンプ場） ・撞舞の積極的な発信 ・コロツケフェスティバルをよりアピールする ・たつのこフィールドでの大昭盆踊り大会 ・SNSなどで魅力を呼びかけ（行政、自治会） ・関係人口を増加させる ・道の駅跡地をトラック専用休憩スペースに ・既存の制度を強化し、他市にはないものを作る ・ご当地ヒーローでアピールして子どもに注目をあびせる ・地域通貨電子マネー
龍ヶ崎市の移動手段に何を加えるべきか	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部へのアクセス整備（高速道路・一般道・電車等） ・既存のバスや電車の時間を少しだけでも増やす ・竜ヶ崎線の本数増加。バス路線増加。 ・高速道路の拡充 ・国道6号の整備 ・コミュニティタクシー ・電動自転車とヘルメットの貸し出し ・人力車トウクトウク ・バス停の近くに自動販売機等を設置する ・高齢者の代替移動手段の拡充（乗合タクシーの減額） ・コンパクト化（各地域で） ・コミバス時刻表のアプリ化と周知

■第1回 ワークショップのテーマ

○各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしましょう。

「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」にするためには

①各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深掘りしてください。

②出された意見を5つ程度のグループに分け、テーマを設定してください。

③それぞれのテーマで「考えたいこと」を設定してください。

関係人口増加させる

